

令和7年3月31日

令和6年度 学校関係者評価報告書

学校法人中村学園
静岡福祉医療専門学校

文部科学省「専修学校における学校評価について」による学校評価ガイドラインをベースとして自己点検・評価を実施してまとめた「令和5年度自己評価書」を元に、令和7年3月11日、学校関係者評価を実施した。

文部科学省「専修学校における学校評価について」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1332632.htm

専修学校における学校評価ガイドライン

令和6年度学校関係者評価委員及び事務局

<関連団体>

鳥羽 茂 氏 特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会 事務局長

<保育関係>

白鳥 智美 氏 学校法人中村学園 第一ひかり幼稚園 園長

<卒業生>

川崎 誠之 氏 社会福祉法人駿河会 特別養護老人ホーム晃の園 園長

石間 洋美 氏 一般社団法人日本顧問介護士協会 理事長

<事務局：本学教員>

中村 徹 理事長・校長

有賀 浩 副校長・教育部長

富田 順子 教頭

中村 健太郎 教育改革推進室室長

原木 伴美 教務課長

後藤 明子 子ども心理学科 学科長

井川 真世 総合福祉学科 学科長

三嶋 秀子 介護福祉学科 学科長

鈴木 ほまれ 視能訓練士学科 学科長

1. 評価項目別学校関係者評価

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

(1) 教育理念・目標

評価項目	4段階評価
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
・学校における職業教育の特色は何か	4
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・入学時だけでなく、「建学の精神」と「校訓」の具現化に向けた日々の指導を行う。
- ・「コミュニケーション力」「人間力」を高める為に、学内だけでなく学外の方との接点を多く持つことで各々が向上できる機会を作る。
- ・特に「創造する力」の育成に力を入れていきたい。
- ・自分の考えや行動の傾向に気づく力（「自己認識力」）を向上させ、課題を自ら見つけられる学生を育成したい。
- ・「挨拶を基調とした全人教育」を目指している。挨拶が自然にできるような学生を育てていきたい。
- ・「ふれあいの心」を大切にできる人を目指すために、普段から周りに配慮した言葉遣いを心がけるよう促していく。
- ・医療人としての確固たる基準を持ち、それを指針として物事を考え、決定できる人材を育てていきたい。
- ・「新しいことに挑戦し続ける力」と「現代社会の変化」に気づける敏感さ、それに「柔軟に対応する力」を育てていきたい。

② 今後の改善方策

- ・定期的に SHR やゼミナール等において、日々の時事問題と重ねながら「建学の精神」、「校訓」、「教育方針」の具現化に向けた課題を確認する。
- ・後援会 総会、学級懇談会や不登校気味な学生においては、「建学の精神」、「校訓」、「教育方針」の意味を周知し、学校へ入学した意味を再確認し、学期などの節目も必要に応じて保護者への連絡を行う。
- ・言語化する機会は、各クラス、学年、学科で随時行っていく。
- ・介護福祉学科と合同で看護学校との合同授業等多職種連携授業を継続していく。視能訓練士学科、子ども心理学科との連携授業も取り入れていきたい。

<ul style="list-style-type: none"> ・まずは自ら情報を得ようとする力、そして得た情報の取捨選択、真似するのではなく参考にして新たなものを創造する訓練等グループワークを通じて行っていきたい。 ・自己認識を促進する教育の不足とフィードバックの未成熟さが目立つため自己評価や内省の時間を意図的に取り入れていくシートの活用やポートフォリオの作成など、内省を習慣化する仕組みをつくる。 ・あいさつや他者に対する配慮がなぜ必要なのか、常日ごろから教員が意識して行動すること、および、学生の気になる言動について拾っていく細やかさが求められる。 ・実際の事例を使用したケーススタディやロールプレイングを繰り返し行い、学んだことをその都度、言語化することで育てていきたい。 ・現代社会の変化を意識させ、どう対応するかを考え、ディスカッションの場を設ける。
<p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし

(学校関係者評価委員による評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・他学科とのやりとりや幼稚園での活動を、学園祭や子ども心理学科+映像系の学科の学生と園児の特別な体験ができた。これはコラボだからできたことであり、中村学園の環境の良さからであると感じる。さらなるレベルアップを期待する。
- ・インプットとアウトプットや、学年を越えたワークをするなど相互に良い環境だと感じる。学年ごとに視点が異なる、そこを直接聞ける貴重な機会である。多職種連携での情報交換につながる、とても良いことだ。
- ・「ヤバイ」とか「めっちゃ・・・」と何もかもを1つのワードで言う風潮があり言葉の数が減っているように感じる。
- ・さまざまな気持ち、感情を表す言葉をより具体的に表現させることを試みてほしい。

(2) 学校運営

評価項目	4段階評価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4

・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

(学校関係者評価委員による評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・特になし

(3) 教育活動

評価項目	4段階評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
・授業評価の実施・評価体制はあるか	3
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・日課の変更の目的や意義を学生と教員がよく理解し、円滑な移行を行う。
- ・外国人留学生の実習に向けて、今後も引き続き受け入れ態勢を強化してもらう。
- ・各教員が専門分野に関する知識・技術の向上を図るのはもちろんだが、プラスワンの知識を積極的に学ぶ研修計画を立てていく。
- ・昨年度同様、社会人講座に2, 3年生の学生をアシスタントとして参加させ互いに良い効果をもたらした。
- ・今年度、3学年に対して「実習に関する意識調査」を実施。結果をまとめ教員間で共有した。この内容を来年度以降に活用したい。
- ・学会や専門研修に参加することで、最新の研究成果や実践的な知識を得ることができ、教育・指導の質を向上させることが期待される。

② 今後の改善方策

- ・学科内で適切な授業評価を実施したい。また教員への要望に向き合っていく。
- ・ICT の活用や介護ロボットの活用が現場でどのようになされているのかを含め、今の介護・福祉業界を体感するために教員の現場研修を実施していきたい。
- ・実習施設や実習指導者との連携を密にしながら、実習以外のフィールドスタディでも様々な機会を学生に提供できるよう、教員は関係構築を行っていく。
- ・専任教員や非常勤講師のみの授業ではなく、様々な分野の専門職の方からの「特別講座」を実施していく必要がある。
- ・毎年変化する学生の性質を肯定的にとらえながら、日頃の教育活動について、教員自らが「振り返り」を行い、自己研鑽を重ねていく姿勢を持つ。
- ・今後も、学生教育に有効な学会、専門研修を厳選し、参加支援をお願いしたい。

③ 特記事項

- ・R7年度より、学校共通書式を作成し各学科にて授業評価の実施をするように準備していく。

(学校関係者評価委員による評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・ICT、介護ロボットの活用について、現場ではDXがかなり進んできている。教育の中にも取り入れていくべきだと考えるが、実際はどうか。
- ・現場でも、バイタルが寝ているだけで取れるものなどを取り入れている。教育にも取り入れて、現場で戸惑わないようにしてほしい。

- ・本園では、専門学校のコラボや詳しいスタッフが園内で指導したりしている。災害時など、電力が使用できない場合の対応などを検討している。
- ・子どもたちの活動にICTを取り入れるのは、なかなか難しいのが現状。園では伝統行事などに力を入れているのでICTは専門学校とのコラボに期待。
- ・基礎教育、専門領域の学び、それに付随して福祉的倫理観や人間性も高められるようさまざまな刺激を学生に与えていくことができると素晴らしいと思う。
- ・長い間福祉現場で働いている方々で特別講師として来校し、お話しくださる方が増えると良いと思う。

(4) 学修成果

評価項目	4段階評価
・就職率の向上が図られているか	4
・資格取得率の向上が図られているか	4
・退学率の低減が図られているか	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

①課題

- ・今年度の退学者はいなかった。
- ・入学後、前期の終了までに退学者が出てしまう
- ・就職率は100%であるが、介護福祉士国家試験の合格率が100%に至らない。
- ・卒業後のキャリアアップに向けての支援に偏りがある。
- ・介護実習終了後に専門職に対する不安や自信のなさから進路変更を考える学生がみられた。実習は実践の学びの場であることを理解させる、気持ちを前向きにするための個別指導を担当及び学科で行う必要がある。
- ・卒業生が現在どのような活躍をしているのかデータ化しておく必要がある。
- ・退学については、前期終了時1年生に複数出た。後期はなし。1年生前期の退学については、「何となく進学した」という意識の低さと将来についてまじめに考える生真面目さが欠けると退学に結び付きやすい。
- ・年々、基礎学力の低下がみられる。学習面を原因とする退学を予防する必要がある。

②今後の改善方策

- ・就職希望を早期に固め、希望先の求人状況に合わせた活動と準備ができるようにする。
- ・国家試験対策の各種ツールを駆使し、個々の学生に合った試験対策ができるようにする。
- ・卒業後の進路変更やキャリアアップの希望が掴めるよう、SNSや同窓会ホームページを活用する。

<ul style="list-style-type: none"> ・1年生からソーシャルワーカーに向けた意欲向上を図っているが、学生によってはそれがプレッシャーになってしまうことも懸念される。学生の自信につながる体験を少しずつ継続して行い、個別面談や個別指導により、細かな面まで支援していく必要がある。 ・基礎学力固めのために、4時限の時間を利用し、補習コースを実施したが、教員がつくことがあまりできなかった。放課後の時間を有効利用できるような時間割を組んでいきたい。 ・テーマ設定をし、3学年合同の時間を設けることで学習意欲の向上がみられたため、継続していく必要がある。 ・オープンキャンパスでは、在校生に協力してもらい学校生活について知ってもらう機会は多い。しかし、卒業後の姿について、職業のイメージ化についてはアプローチが薄いため、来年度については、この点を改善できるような企画を考えていきたい。 ・専門教科だけではなく、学力面で不安がある学生には算数の補習を引き続き行う。 ・自分に合った効果的な「学び方」の授業を行い、成績不良が原因の退学を予防する。 ・入学前から学校に対する帰属意識を高めることと学校を安心・安全な場とする。 ・将来像を明確にできるように様々な視能訓練士の働きを紹介するなどして、目指す視能訓練士像をみつけ言語化できるように支援していきたい。
<p>③ 特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし

(学校関係者評価委員による評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・退学については保護者との連携が重要と考える。
- ・退学者が出てしまうことは残念ですが、進路変更が理由であれば仕方ないことかと思われる。指導の難しさを感じる。

(5) 学生支援

評価項目	4段階評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	4
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
・学生の生活環境への支援は行われているか	4
・保護者と適切に連携しているか	4

・卒業生への支援体制はあるか	3
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
<p>①課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関・団体の人材養成に対するニーズが十分に掘り起こせていない。 ・中学・高校とのキャリア教育の連携が滞っている。 ・学生への経済的支援を一層進めなくてはならない。 ・学生に対する個別支援は、問題対応へのウエイトが高く、主体性・可能性を伸ばす支援に傾注しきれていない。 ・経済的支援で前期が学生に負担が大きい。 ・精神的な問題、経済的な問題を抱えている学生が増えてきている。学生が相談しやすい環境を整え、フォロー体制を強化していく。 ・様々な事情を抱えた学生や、学生個人の生活環境等により、問題意識を育む環境整備が困難になっている。学生が自分の考えや行動を客観的に捉える力を養う機会を提供する必要がある。 	
<p>②今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習先や就職先を中心にし、人材養成に対するニーズを引き出し、教育内容に反映する。 ・個々の中学・高校に対するアプローチに留まらず、ボランティア協会などと連携し、出前講座などを企画していく。 ・引き続き、初任者研修や実務者研修を複数講座行っていく。 ・引き続き、通信制高校と連携した出前講座を行っていく。 ・CAN スカラシップを十分に活用し、学生の主体的な意欲を引き出した活動ができるよう支援していく。 ・実習先や就職先を中心にし、人材養成に対するニーズを引き出し、本学独自の講座を企画していく。 <ul style="list-style-type: none"> ・高校生を招いての福祉体験授業はよい反応をいただけた。このような機会を増やしていきたい。 	
<p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

(学校関係者評価委員による評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・学生の主体性を引き出していけるよう根気よく先生方がかわり続けていることが分かります。

(6) 教育環境

評価項目	4段階評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
・防災に対する体制は整備されているか	4

①課題 ・カリキュラム改訂に伴い必要機器が追加となり、静岡県視能訓練士の会を通して加盟施設へ、不要機器(カリキュラム改訂で必要となる)を譲って頂けないか声掛けを行っているが、現時点では反応がみられない。
②今後の改善方策 ・引き続き、声掛けを行なっていく。
③特記事項 ・学校行事である海外研修等については、今年度「台湾研修修学旅行」を実施した。

(学校関係者評価委員による評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・特になし

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	4段階評価
・学生募集活動は、適正に行われているか	4
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
・学納金は妥当なものとなっているか	2

①課題 ・各種ツールを駆使して、学科の特長のアピールを行う。 ・本学が輩出する人材育成に関して、高校生などが持つニーズを開拓する。

- ・企画広報スタッフと、学科の魅力、特長ある授業の内容を共有する。
- ・介護職希望の学生の取り込みを開拓しなくてはならない。(海外等)
- ・情報発信を広くできるよう、SNSの活用、総合福祉学科のチラシの作成等行っているが、学生募集は伸び悩んでいる。オープンキャンパスの内容をわかりやすい体験にしたり、学生スタッフが常にいたりするようにする等、より身近なものにしていく。
- ・学生募集活動について課題が残る。学科としてSNSを活用した情報の拡散を行ったが入学へ繋がったとはいいがたい。他の手段を検討したい。
- ・視能訓練士の職業は一般的に知名度が低く、将来のキャリアとして選択肢に挙がりにくい現状がある。そのため、視能訓練士の役割や意義を広く伝えるための啓蒙活動を推進する必要がある。

②今後の改善方策

- ・外国人留学生にも本学の情報が適切に伝わるよう、外国人卒業生から口コミで学科の特長と卒業後の成果をPRしてもらうようにする。
- ・外国人留学生は口コミで広がるのが大きいので、卒業生から学科の特徴と卒業後の成果をPRしてもらうようにする。
- ・海外からダイレクトに入学するシステム作りをする。
- ・在校生に気軽に質問できるツールを電子情報カレッジの学生と作成した。来年度以降在校生が上手く運営できるようにしていきたい。
- ・学生主体のSNSの更新が実習等をはさむと滞ってしまう。定期的に発信することができるよう、来年度はSNS発信日を決めて学科として取り組んでいきたい。
- ・高校への出前出張の講座を増やしていきたい。
- ・SNSの効果は出ていると感じている。これからも、本学を知り、ここで学びたいと実感していただけるような内容をつくり、発信していきたい。
- ・視能訓練士の啓蒙活動に力を入れているが、充分ではない。オープンキャンパスでは学生が生き活きと教える姿を見せることで学園の学びをイメージさせている。

③特記事項

- ・特になし

(学校関係者評価委員による評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・ボランティア協会としても、高校を訪問しボランティア活動の啓発やサマーショートボランティアの呼びかけをする。その際には、静岡福祉医療専門学校のことをさらにPRできると良いと考えている。

(8) 財務

評価項目	4段階評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
・財務について会計監査が適正に行われているか	4
・財務情報公開の体制整備はできているか	4

(学校関係者評価委員による評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・学生の確保ができていて、学校経営が成り立つと思います。今後も学生確保を最優先に考えていくことが必要であると感じます。

(9) 法令等の遵守

評価項目	4段階評価
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
・自己評価結果を公開しているか	4

①課題

- ・個人情報保護法の理解と周知徹底を図る。

②今後の改善方策

- ・法令遵守に加え、職業倫理の観点から、個人情報保護の重要性を教員、そして学生に日々、周知徹底していく。
- ・SNSなどによる個人情報漏洩の危険性とその防止方法を具体的に周知する。

③特記事項

・特になし

(学校関係者評価委員による評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員からの意見)

・特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	4段階評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

<p>① 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生・教員で小中学生に対する福祉教育を行う機会を増やし、福祉のしごとに対する種まきを行っていく必要がある。 ・地域の方に対する福祉の相談窓口、アクティブシニア向けの講座等の開設ができないかと模索している。 ・子ども心理学科の付帯施設として「小規模保育園」を運営している。所在する町内会長様、民生委員様とも情報交換しながら、すみやすい地域づくりを目指している。ただし、教員や学生と地域のつながりができていない。
<p>② 今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座や地域での相談事等のニーズについて、地域包括支援センターの方とも検討を進めていきたい。 ・介護入門研修を実施し、ニーズがまだまだあると感じた。技能実習生向けや就労支援をプラスした講座も検討していきたい。 ・地域に根付いた専門学校を目指し、専門学校の立地を中心としたボランティア活動等の掘り起こしと学生の参加(地域と学生とのつながり)を構築したい。
<p>③ 特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし

(学校関係者評価委員による評価)

評価視点	4段階評価
------	-------

①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・学科ごとの活動だけでなく、学校として地域とのつながりがあると思います。
- ・「つなぐ」活動を引き続きお願いしたい。その際はぜひボランティア協会にお手伝いさせていただきたい。

(11) 国際交流

評価項目	4段階評価
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4

① 課題	・留学生を受け入れているが、学習支援、生活指導の課題の整理は途上である。
② 今後の改善方策	・留学生支援の体制、特に経済的支援の体制を整備し、留学生が学び易く、成果が出せるような環境整備を行っていく。
③ 特記事項	・特になし

(学校関係者評価委員による評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・学校以外の団体とも協力体制が取れると思います。

以上